

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

| | | | | | |
|--------------------|--|------|-----|-----|----------|
| 都道府県名 | 神奈川県 | 市町村名 | 葉山町 | 大学名 | 葉山町教育委員会 |
| 派遣日 | 令和4年3月9日(水曜日) 13:30~16:30 13:30~15:20 日本語指導者研修会 15:25~16:30 複数言語話者への日本語習得度確認シート等のアドバイス | | | | |
| 実施方法 | ※いずれかに○をつけてください。 派遣 / (遠隔) | | | | |
| 派遣場所 | | | | | |
| アドバイザー氏名 | 大阪大学大学院言語文化研究科 講師 櫻井 千穂氏 | | | | |
| 相談者 | 葉山町教育委員会学校教育課 指導主事 松本美穂 葉山町教育研究所 教育指導員 中根 正彦 | | | | |
| 相談内容 | ① これまで日本語指導者の独自の指導に頼る部分が非常に大きく、自治体として日本語指導者へ研修会を行ってこなかった。複数言語話者を指導、支援するために、大切にしたいことや具体的な指導、支援についてご教示いただきたい。 ② 日本語指導が必要な児童への適切な指導時間の配当やアセスメントについてご教示いただきたい。 | | | | |
| 派遣者からの指導助言内容 | ① 「日本語指導が必要な」という言葉自体にマイナスイメージがあり、自己肯定感を下げる要因となる。言葉を教えるのではなく、子どもを育てる(子どもの言葉を育てる・言葉を使う)ということを意識すること。大人に言葉を教えるのとは違い、言葉の概念を教えること、認知レベルは下げずに言語レベルを下げるのが大切である。週1~2時間程度では、力をつけることは難しい。日本語指導者が居ない時間に何ができるかを考えると、担任との連携であり、対象児童をかえるのではなく、環境をかえることが非常に大切である。 ② 他自治体のハンドブックや日本語習得度確認シートの紹介や具体的説明をしていただいた。1から作成するには専門性が高いため、他自治体の資料を参考にするとよい。 | | | | |
| 相談後の方針の変化、今後の取組方針等 | ① 日本語指導者が学校と連携しやすいよう教育委員会担当が各校へ働きかけること 日本語指導者のフォローアップを研修会や聞き取り等により定期的に教育委員会担当が行っていくこと 「日本語指導」という言葉の変更を検討すること (受講した日本語指導者の声) ・大変有意義な研修会だった。これまでの自分の指導を確認でき、さらに安心できる場になるよう気を付けていきたいと考えた。また今後の目指すべき部分やベースになることが分かった。自分自身が今後も勉強すべきだと思った。 ② やさしい日本語による「受入れハンドブック」の整備 葉山町版「日本語習得度確認シート」を作成し、定期的に児童の日本語習得度を確認しアセスメントをとる | | | | |